

今年の夏は猛暑といわれ、毎日うだるような日々が続いておりますが、会員のみなさま、お子さまたちはお元気でしょうか。とくに暑さには弱い子どもたちの健康を守ってあげることは大変だと思います。家族のみなさんもお自愛ください。

石川県重症心身障害児(者)を守る会

第5回総会開催される!



去る7月8日、医玉病院の会議室にて今年度の総会が開催されました。当日は正会員29名、賛助会員3名の参加、14名の委任状を以て総会が成立しました。まず、1年間の活動状況が事務局長の越坂さんから、「ふれあいの家(仮)」準備会の現状が益子さんからそれぞれ報告されました。また、2年目を迎えたレスパイト事業「ハートポッポ」の活動についても会計も含めて報告されました。

その後役員改選を行い、引き続き平成13年度の活動方針案や予算案が提案されました。

会員のみなさんからは

- ・「ふれあいの家」建設に向けての具体的な見通しについての質問や、もっと会員を増やして足元をかためるべきなどの意見が出されました。
- また、病院敷地内での建設が困難になった時の利用のしかたなどについても、会員にアンケートをとるなどして意見を聞いてから動きだしてほしいなどの意見もだされました。

◎この件については役員会としても「専門部会をつくるなどして慎重に検討していきたい」ということでした。

- ・「ハートポッポ」については入所している人たちも利用できるのかという質問がありました。

◎この件についてはレスパイト事業というのは、本来、在宅で24時間子どもの療育にあたっている家族の方に、少しでも休養とってもらいたいという主旨で始めたものです。もちろん入所している方も会場まで連れてきていただければ利用できるということです。ただ、スタッフは全てボランティアのため行き届かないところもあると思いますのでご了承くださいということでした。

また、活動方針案についても

- ・会を充実させていくための大前提として「会員拡大に努力する」という項目が必要だという意見も出され、当然のこととして原案に受け入れられました。
- ・会の運営についても会員の拡大を初め、地に足をつけた活動が大事であるという意見も出されました。

様々な討論の後全ての議案が承認可決されました。

平成13年度事業計画

～ 会員の拡大に努力する。～



(1) 療育事業

- ・本部補助事業の実施（感覚的体験プログラム、巡回療育相談）
- ・在宅訪問および相談活動
- ・レスパイト事業「ハートポッポ」を継続実施（月1回第3日曜日開催）する。
- ・重症児（者）の生活向上のための支援

(2) 啓発活動

- ・会報「石川守る会」を発行する。（年3～4回発行 会員及び関係行政機関へ配布する。）
- ・会員のお子さんに誕生カードを配布する。
- ・「両親の集い」「全国重症心身障害児（者）守る会パンフレット」（全国守る会発行）を必要に応じて配布する。
- ・会員の福祉・医療知識向上を図るため、研修会を開催する。
- ・バザーや講演会等を開催し、地域との交流をもつ。

(3) 「ふれあいの家」（仮称）建設の推進

(4) 障害者施策への参画

- ・適宜行政担当者との懇談を行なう。

(5) 全国重症心身障害児（者）を守る会との交流を図る

- ・全国重症心身障害児（者）を守る会の諸行事に参加する。
①全国大会 ②全国支部長会議 ③東海北陸ブロック役員会・研修会

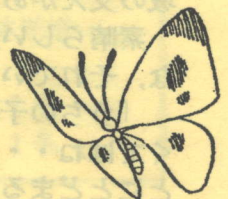
(6) 他の障害児（者）団体との交流

(7) 定例総会の開催

(8) 定例役員会の開催（3/5/7/9/11/1月の第2日曜日）

新役員紹介

会長	山本 衛
副会長	益子佳苗 越坂由紀子
事務局長	越坂由紀子
理事	新保修三郎 西脇瑞枝 松田好子（ ）
会計	梶田理美
会計監査	山岸郁代
広報部	漢野秀子 西田淳子
会員部	大野木春雄（能登地区） 久保貞人（金沢地区） 山岸郁代（加賀地区） 益子佳苗（医王病院第1） 松阪須美江・山田美智子（医王病院第2）
顧問	石川克巳 相談役 西田淳子



会長就任にあたって

去る7月8日の石川守る会総会において、益子前会長の後を受けました山本衛です。石川県における重症心身障害児(者)を取り巻く環境は未だ十分とはいえない現状にあります。少しでも「社会的弱者と言われる障害者、とりわけ重症児(者)の福祉向上のために社会環境を整えること」に役に立てればよいと考えておりますのでよろしくお願いします。

それには、本会の運営をあなた任せにするのではなく、会員一人一人が知恵をだし、汗をかき、意見を言うていただくことがこの会を地域社会に理解してもらうことにもなり、さらに発展させる力にもなると思っています。

今回の会長就任は、私にとって大変な重責であります。本会の基本理念である「最も弱いものをひとりももれなく守る」をもとに「子ども達の幸せのため」に少しでも役立てればと思っています。

会員の皆様の絶大なるご協力・ご支援をお願いいたします。

石川県重症心身障害児(者)を守る会
全国重症心身障害児(者)を守る会石川支部
会 長 山 本 衛



心の通った施設を見学して

松田好子

去る4月30日、5月1日に機会に恵まれて越坂さんと「全国重症心身障害児(者)を守る会」が管理運営している東京都立東大和療育センター・重症心身障害児療育相談センター内の通園通所部門のあけぼの学園とそこに隣接する三宿つくしんぼホームを見学させていただきました。

東京都から依託された重症心身障害児入所施設である東大和療育センターは、今から10年程前にできた施設ですが、設備の面で驚かされることばかりでした。「施設特有の臭いはどこにでもある……」と思っていました。でもそこにはなかったのです。部屋の一角に運搬用エレベーターがあって、汚物はそこから人目に触れることなく回収されて戸外に運ばれるのです。おしっこが出るとおむつにつけてあるセンサーが作動して掲示板に表示されていました。すぐおむつ交換ができるので不快感は最小限のようです。他にも随所に様々な工夫がされていましたし、施設を案内してくださった有馬院長先生の優しい人柄も印象的でした。

通園施設のあけぼの学園・三宿つくしんぼホームは、ほんとうに障害の重い子ども達が通っていました。でも、子ども達はとてもいい顔をしていました。医療と地域の支えがあれば、やはり家族とともに生活するのがいいように思いました。

素晴らしい施設を見学できたこともさることながら、なによりも北浦会長の強靱な、それでいてかつ温かな人柄に触れることができたことはとても幸せでした。

「うちの子は入所しているから安心なのよ。在宅の人たちのことを考えていなくてね……」我が子のことを想うのは親として当然のこと。しかし、そのことにとどまることなく、より多くの障害のある子どもたちやその家族のことを考え



ている北浦会長の言葉が心にのこりました。

会長のお子さんは私より少し年上。障害があるということが罪悪のように言われて、社会から疎外されていた時代に我が子たちのために大変な思いをしながらがんばってこられて・・・・・・そして今があるのです。

素晴らしい先輩に出会えたのも、ゆうすけ（我が息子）のおかげかな！？

第38回全国大会開催される！

～ 越坂さん、全体会で発表する～



6月16日～17日にかけて広島において「全国重症心身障害児(者)を守る会」の第38回全国大会が開催されました。石川県支部からは山本さん、越坂さん、石川先生が参加されました。大会では国の新しい政策の意義や動向について厚生労働省の障害福祉課長に説明をしてもらったり、問題別の分科会に分かれて親の意識の改革と運動への積極的な参加が求められていることを共通の課題として論議されたようです。

第1分科会 成年後見制度はどのように生かされているのか

・成年後見制度のあらまし ・具体的な手続き

第2分科会 重症児施設（国立療養所を含む）のこれからのあり方

・社会福祉法は施設運営に生かされているか ・国療における通園事業開始の意義と効果

第3分科会 在宅重症児（者）を支える地域支援活動のあり方

・養護学校における医療ケアはどのように取り組まれているか

・学校卒業後の進路は万全か ・地域支援活動の機能と実際

第4分科会 いわゆる動く重症児（者）の問題にどう取り組むか

・動く重症児(者)と強度行動障害の違い

・動く重症児(者)の療育は、今後いかにあるべきか

以上のように幅広い課題について専門的立場の助言者と共に熱心に討論されました。石川守る会の事務局長でもある越坂さんも式典の中で意見発表されました。

「重い障害のある娘さんを育てていく過程で、様々な困難に立ち向かっていったことや、その中で色々な人に出会って励まされたことなどを限られた時間内でまとめられました。訪問教育の高等部を求める運動を母体にして石川県重症心身障害児(者)を守る会を発足させた矢先に21歳で最愛の娘さんを亡くされたこと。その悲しみを乗り越えて守る会の運動に力をつくされ支部結成にまでこぎつけられたことさらに安心して重症児を育てていける環境づくりのために努力をしていきたいことなどを発表されました。」

平成13年度補助事業

・感覚的体験プログラム

日・時 10月28日(10:00～15:00)

場 所 医王病院ディケア棟（予定）

内 容 重症児のための緊張緩和法の講習

講 師 音楽療法の先生

会 費 2000円

会員の現況

新入会員

賛助会員 小林光雄

正会員 61名

賛助会員 31名

